

日本国民のほとんどの人が銀行を利用している。今のようなマイナス金利の時代、銀行ユーザーは資産を増やすことよりも安全を求めて銀行を利用している。銀行で口座を開設すると、通常は紙ベースの通帳と磁気カードがもらえる。磁気カードには重要な個人情報が入っている。銀行のATMでお金を引き出す場合、他行へお金を振り込む場合など、通帳と磁気カードは必ず持参する必要がある。そして、自分がその通

パスワードの重要性

つとは限らない。利用ユーザーの数が現れてくると、当然PWの数も増える。その結果、「同じPWを使い回し」する人が出てくる。これは危険な行為とされている。多くの銀行では、PWは4桁に設定されている。しかしこれが4桁より少ない、例えば2桁や3桁ではどうか。確かにユーザーにとっては覚えやすいし、ATMのタッチパネル入力も楽である。ところが桁数が少ないと他人に悟られやすく、盗み見されやすくなる。通帳、カードが第三者の手に渡り、しかもPWまで盗み取られてしまうと、後は第三者によって簡単にお金を盗られてしまうだけである。

4桁より多い場合はどうか。一挙に2倍の8桁ならばどうであろうか。桁数が多い場合には、他人に悟られにくい、盗み取りされにくいなどの利点はある。ユーザーにとっては、PWの入力は4桁よりも少し手間がかかるが、安心感が増えるだろう。ところがこれも問題がある。PWの桁数が多くなると、それを覚えることを苦手とする人も世間には存在するからだ。「長いPWを覚えきれない」といふ、PWは自己責任で厳重に管理することが重要である。

安全性と 利便性の バランス

帳の持ち主であることの証明としてパスワード（以下PWと表現）を届け出なければならぬ。しかし、お金を預けている銀行はひと



名古屋経済大学
経営学部教授

吉川 伸一

よしかわ・しんいち ファジィデータ解析、SCMに関する基礎的研究。大阪府立大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。1963年生まれ。

る。

最近では、ネット銀行が盛んであり、ビジネスマンや若年層を中心に多くのネット銀行ユーザーがいると思われる。ある有名なネット専門銀行では、PWの桁数が自由に選択でき、最長32桁くらいまでのPWを設定することも可能なようだ。0から9までの数値以外に、AからZまでのアルファベット、「?」「&」などの記号もPW内に組み込むこともできる。

ネット銀行は、自宅内にながら利用可能でPWはあまり覚える必要もない。ネット銀行のサイトへログインするときに必要なPWは、メモ用紙などにそれを記入して、どこか自立たないところに厳重に保管しておけばよいだろう。

自分に合った銀行を選び、PWは自己責任で厳重に管理することが重要である。

